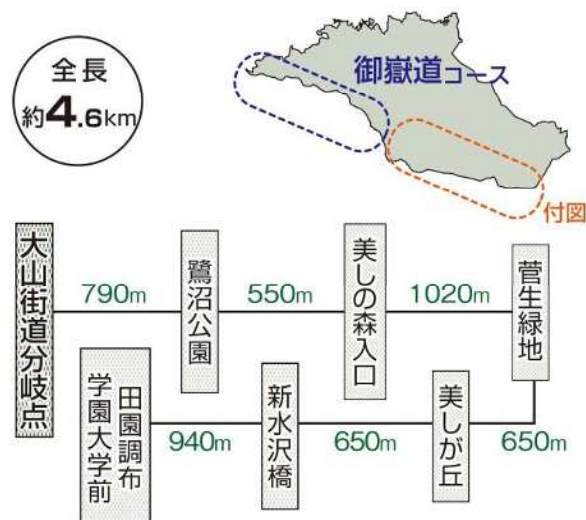


その11

御嶽道

—豊作を街りあるく—

撮影場所:潮見台南端の横浜市場



インフォメーション: [大山街道分岐点] へのアクセス

(電車) 東急田園都市線「鷺沼駅」から徒歩15分です。

御嶽道 (みたけみち) について

御嶽道は武蔵御嶽神社へ至る道である。品川、羽田方面の御嶽講の信者は、羽田道で穴守稲荷弁天堂を参拝したあと、羽田の渡しあるいは大師の渡しで多摩川を渡り川崎大師を参拝した。その後、府中(川崎)街道で小杉に向かい、中原街道で野川の山崎に達し、山崎から南の横大道に入り有馬の峯道を通り、犬蔵、水沢を経て弘法松に向かっていた。御嶽講は、江戸時代後期から大正時代にかけて、南関東、東海地方に広がっていた。宮前区内では菅生、土橋、馬絹、有馬などで広く行われていたが、とりわけ稗原は盛んであった。御嶽講は、集落を代表した代参者が参拝することが多かった。奥多摩の御岳山の宿坊に泊まり、御師の先導で御嶽神社を参拝し御札を貰った。帰宅後、講の参加者に札を配り、隣近所には「武蔵国御嶽山大口真神」と記された札を農耕・火防(ひぶせ)・盗難除の御守りとして渡した。



大神の護符

ポイント解説 (数字は裏面の散策コースのポイントに対応しています。)

① 大山街道分岐点



大山街道は、矢倉沢往還とも称す。また鎌倉時代に作られた鎌倉街道中道本線でもある。大山参詣者は赤坂御門から大山街道で大山に向い、宿坊に1泊したあと身を清め、御師の案内で大山を登拝し雨乞、豊作、豊漁、航海安全などを祈願した。

② 鷺沼谷(さぎぬまやと)



全長約600mの三日月型の谷戸。貉谷(むじなやと)、長谷(ながやと)、梅ノ木谷などの枝谷戸がある。昭和大学鷺沼校地は、有馬川の水源地になっている。谷戸の低地には湿地帯が広がり湿性植物が生え、周辺民家の茅場になっていた。谷戸の高地には、縄文時代早期の鷺沼南遺跡、鷺沼長谷遺跡、縄文時代中期の鷺沼遺跡がある。

谷戸の高地には、縄文時代早期の鷺沼南遺跡、鷺沼長谷遺跡、縄文時代中期の鷺沼遺跡がある。

③ 清水枝谷(しみずのえだやと)

平成4年以降に行われた土地区画整理事業により谷戸は消滅した。現在は一部が宮前美しの森公園となり、湿地内にはホタル、トンボ等が生息する。



④ 烏谷(からすやと)



昭和40年前半まで、一帯には樹木が茂る谷戸が広がり、清水ガシラとよばれる矢上川の水源地があった。低地には水田、斜面には畑が開かれていた。

参考文献

『新編武蔵風土記稿二』 昭和44年 歴史図書社
『川崎地名辞典上下』 平成8年 川崎地名研究所蔵
『川崎市石造物調査報告書』 昭和54年度 川崎市教育委員会

⑤ 菅生緑地東地区



かつて、周辺一帯には烏谷が広がり、谷戸の奥にはシミズガシラと呼ばれる湧水があり、矢上川の水源地になっていた。また、隣接する北部市場内には、縄文時代早期の菅生水沢遺跡があり、縄文時代から古墳時代にかけての住居跡、炉穴などが発見された。現在は桜の名所としても知られている。

⑥ 菅生緑地西地区

通称「水沢の森」で親しまれている。御嶽道が通過する尾根の北斜面に広がり、雑木林や竹林がある里山として整備され、菅生水沢遺跡に因む「縄文の森」も作られている。



⑦ 王禅寺道

麻生区にある王禅寺を参詣する道で、大山街道の宮崎大塚を起点とし、神木、竹芝、水沢を経て、保木薬師を参詣して王禅寺に向かっていた。王禅寺は最盛期に、真言密教を修行する七堂伽藍を持つ学問寺として栄えた。寺院再建に使う用材を探すうちに、日本最古の甘柿の「禅寺丸」が発見された。

⑧ 鎌倉街道中道支線

荏田から登戸に向かう中道支線で、途中、天福元年(1233)に創建された菅生神社、権現坂中腹には鎌倉ゆかりの住二所権現社があった。

⑨ 大山街道脇往還

登戸、和泉、中野島周辺の大山参詣者は、二子溝口宿より距離が近い脇往還を通り荏田に向かっていた。沿道には大山常夜灯、道標が置かれていた。

『川崎の庚申塔』 昭和60年度 川崎市博物館資料調査団
『川崎の民俗』 昭和54年 角田益信著
『村況史料集下』 平成2年 川崎市市民ミュージアム

